



フツクレビコロ

亀甲獣骨

533 山本 一力著
 1899年、古代の青銅器や石碑などに刻まれた銘文や絵を研究する金石学の学者、丁仁のもとに雑貨商人、元突聘(げんとつへい)が訪れた。当時は地中から出土し



亀甲獣骨 山本一力

た脊椎動物の骨の化石を、「竜骨」と呼んでいた。その竜骨に神秘的な文字や図形が刻まれている

地中から出土した「竜骨」をめぐる冒険

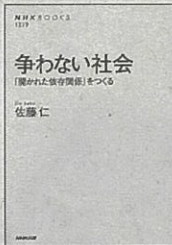
るのが発見されて話題になっていった。丁仁は元突聘にこの噂を調べてほしいと頼んで

争わない社会

佐藤 仁著

を調べてほしいと頼んでいたのだが、その頃、義和団に不穏な動きがみられるとの情報があり、その現状を元突聘に聞かねばならない。元突聘が持ってきた竜骨に刻まれたものは判別できないが、明確な意図を持った者が何かを伝えようとしているのだ。

21世紀は9・11同時多発テロで幕を開けた。アメリカとイスラム原理主義のような二項対立的「発想」があるためだが、著者はそれを超えて人間を結びつけたり引き離したりする力を「依存関係



争わない社会
 「争かずに共存関係を」をめぐって
 佐藤 仁

という視点から考えてみた。

「依存」とは「ほかのものに頼って存在していること」だが、依存先の選択肢が限定されると与えられた状況に身を任せるしかなくなる。だが、依存先が複数のネットワークを形成していると、争いの原因になる他者の蔑

視や排除に加担する可能性は低くなるのではないか。

東洋史学者、宮崎市定はそれを、地上では違う形で現れるが共通の根を持つスギナとツクシに例える。

「開かれた依存関係」を提唱する文明論。(NHK出版 1870円)

獣の夜

森 絵都著

美也の35歳の誕生会の日、夫の泰介が仕事のト

ラブルで迎えに行けなくなり、代わりに同級生の紗弓が迎えに行くことになった。美也は今夜は泰介と夫婦でディナーを楽しみたいつもりだが、実はサブライズで元のサークル仲間が集まっている。そもそも泰介は大学時代に紗弓と付き合っていたのに、うまくいかなかった。美也と付き合いはじめ、結婚することになったのだ。

ありふれた一日が揺らぐ瞬間を描く7つの短編。(朝日新聞出版 1760円)



獣の夜
 森 絵都